

## ◆大人からのプログラム提案

### ヒアリング準備



▲生徒の立場に立って話し合う学生スタッフ。

プログラム提案者の大人のパートナーとして、学生スタッフには入学してくる子どもの目線に立った提案力が求められる。提案者の思いを聞くために実施するヒアリングはパートナーである学生スタッフの思いを伝えるチャンスでもある。自らが「いまばり夢学校」で実施したいプログラムのイメージを持つことが、ヒアリングの質を向上させることにつながると考え、2, 3人の座談形式で、子ども達にとって魅力的なプログラムとはどんな内容かを話し合った。

その後は本番さながらのヒアリングの練習。友達の対応の様子を見て、気をつけたいことや改善点を積極的に出し合った。

### ヒアリング

#### 体験型ヒアリングに挑戦しよう

いまばり夢学校 2007  
ヒアリングシート

#### 1. 応募用紙から分かっていること

授業名	
お名前	
団体名	
日ごろの活動内容	
授業実施内容	
子ども達に学んでほしいこと	

#### 2. ヒアリングで確認すること

①どんな授業を考えていますか？（応募用紙を読んで、分からないことを質問しましょう！）

②「いまばり夢学校」へ応募した動機は何ですか？

（こんなことを質問してみよう！）

- ①今回の授業で子ども達にどんな力をつけて欲しいと思っていますか？
- ②授業の魅力は何だと思いますか？
- ③小学3年生から6年生の子ども達が授業を受けます。難しくありませんか？
- ④何か小学生向けの工夫を考えていますか？
- ⑤授業をすることで、あなたの団体にどんな力をつけたいと思っていますか？

③選ばれた授業は、実現に向け、私たちと一緒にプランニングしていきます。私たちはどんな関わりができますか？

（こんなことを質問してみよう！）

- ①私たちスタッフはどんな役割をしたらいいですか？
- ②私たちスタッフとどんなふうに関わり合いを築きたいですか？

④最後に伝えておきたいことがあればお願いします。

（こんなことを伝えよう！）

- ①私たちはこんな人と一緒に企画をしたいなと思っています。
- ②私たちはこんなルールをつくりました。

#### 3. 聞いたことをまとめておこう

どんなことが魅力的だった？印象的だった言葉は？

▲ヒアリングの際、活用したシート

学生スタッフは、聞くグループと記録するグループに分かれローテーションをしながら、20分間ずつ対応した。ヒアリングを終えた学生スタッフから、「9つのプログラムはどれも魅力がいっぱい。できれば全部したい。」と率直な感想が寄せられた。

## ◆大人からのプログラム提案

ヒアリングの目的	<p>プログラムを選ぶ時の判断の材料を集めよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応募した思いやプログラムの内容を確認しよう。</li> <li>・自分達と一緒に企画をしたいと思うのはどんなプログラムか考えよう。</li> </ul>
ヒアリングの際気をつけたいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達も緊張しているけど、大人も緊張していることを忘れないようにしよう。</li> <li>・自己紹介はフルネームできちんとしよう。</li> <li>・大きな声で自信を持って質問しよう。</li> <li>・一人1回は質問をしよう。</li> <li>・プログラムのイメージができるように体験できることは体験させてもらおう。</li> <li>・相手に共感しよう。</li> <li>・視線に気をつけよう。</li> <li>・話しやすい雰囲気をつくり、沈黙をなくそう。</li> <li>・記録をとろう。(聞くグループとメモをとるグループに分かれる)</li> </ul>
ヒアリング時の主な質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなプログラムを考えていますか？</li> <li>・「いまばり夢学校」へ応募した動機は何ですか？</li> <li>・プログラムの魅力は何だと思いますか？</li> <li>・小学3年生にとって難しくありませんか？</li> <li>・誰でもできますか？</li> <li>・選ばれたプログラムは、実現に向け、私たちも一緒に企画をします。どんな関わりができますか？</li> <li>・私たちスタッフはどんな役割をしたらいいですか？</li> <li>・最後に伝えておきたいことがあればお願いします。</li> <li>・子ども達に守ってもらいたいルールはありますか？</li> </ul>



▲提案の背景やプログラム内容を伝える資料や道具を準備して応対くださった団体の皆さん。



▲知らない大人たちとのコミュニケーションは、学生スタッフにとって貴重な経験。



人の関わりが増えるほど、プログラムは深みが増していく。全体での目的共有が成功のポイントだ。活動の方向性や参加者に必要な情報は早めに共有することが重要となる。「いまばり夢学校」で、目的共有や役割分担を進める上で役立っているのが、学生スタッフが市民活動団体に行なうヒアリングだ。プログラム内容を単に「聞く」だけでなく、中身の再検討、両者の「思い」の相互理解の時間だ。